

## 平成21年度事業報告書

(平成21年度事業年度:平成21年1月1日～平成21年3月31日)

### I. 財団活動全体に関する事項

本事業年度は、平成21年1月から公益法人移行認定までの3カ月間であり、前期事業のまとめの活動になっています。

3月には大きな目標であった公益財団法人への移行認定を、受けることができました。昨年12月1日施行の新公益法人制度に伴い、12月11日「公益財団法人」への移行申請を行い、文部科学省、内閣府公益認定等委員会の指導を受け、3月18日内閣総理大臣より公益認定を受けました。この最初の移行認定をうけたのは、当財団を含めて3法人です。

事業活動として、3月開催の「スポーツチャレンジウィーク」は、当財団のチャレンジ助成事業の的確なサポート、審査委員の先生の的確なアドバイスがチャレンジャーの成長に結びつき、大きな成果をあげることができました。

今回初めて「スポーツチャレンジウィーク」の最終日に行った「スポーツチャレンジ賞功労賞・奨励賞」は「縁の下の力持ち」に焦点をあてた表彰として注目され、「チャレンジの尊さ」訴求・浸透を図ることができました。

3月27～29日に第17回セーリング・チャレンジカップ in 浜名湖が、102名の参加選手とニュージーランドから3選手及びナショナルコーチを招聘して開催されました。レース終了後にはニュージーランドのコーチや日本のユースコーチ、北京五輪選手を講師とした勉強会が2日間にわたって行われ、参加した指導者からこれまでにない質の高い大会として、評価を受けました。

### II. 事業別の状況

#### 1. スポーツに関わる人間科学・スポーツ医学・予防医学等の研究に対する助成

##### 及びスポーツに関わる技能・体力の向上、体験等に対する助成

- (1) 平成20年9月1日から11月20日までの募集期間中、体験46件、研究75件の応募があり、平成20年12月の書類選考、平成21年1月の面接選考により、第3期生助成対象者として、体験14件、研究11件を決定しました。助成対象者は、平成21年4月より翌年3月までを活動期間とし平成22年3月に成果発表会兼修了式を実施する予定です。
- (2) 第1期生(有志)、2期生助成対象者が1年間のチャレンジ成果を発表する場として、成果発表会を3月23日～26日まで行い、27日に第2期生助成対象者の修了式と合わせ、発表者の中から、特別チャレンジャー賞と審査委員特別賞受賞者を決定しました。特別チャレンジャー賞には、体験チャレンジャーより北京パラリンピックで走り幅跳

び銀メダルを獲得した山本篤さんを、研究チャレンジャーからは腱組織のひずみの不均一性と腱断裂の発生部位との関連性を研究した独立行政法人理化学研究所・生体力学シミュレーション特別研究ユニットの小田俊明さんに決定し表彰しました。また審査委員特別賞は、昨年、中間広筋の筋活動を記録する試みにチャレンジした秋間広さん・渡辺航平さんに決定し表彰しました。

- (3) 上記修了式後、新たにチャレンジを開始する第3期生助成対象者に対し、助成金を交付する贈呈式を実施しました。

## 2. スポーツ文化の振興・発展のための研究等活動を行う学生に対する奨学金給与

- (1) 平成20年9月1日から11月20日までの募集期間中、海外留学生奨学金2名、外国人留学生奨学金15名の応募があり、平成20年12月の書類選考、平成21年1月の面接選考により、第3期生奨学生として、海外留学生奨学金2名、外国人留学生奨学金3名を決定しました。奨学生は、平成21年4月より2年間(一部1年間)を活動期間とし平成22年3月の成果発表会、平成23年3月の成果発表会兼修了式を実施する予定です。
- (2) チャレンジ助成対象者と合同で、第1期生3名、第2期生5名が1年間のチャレンジ成果を発表する場として、成果発表会を3月23日～26日まで行い、27日に第1期生と第2期生(1名、1年間給与)の修了式を実施しました。
- (3) 上記修了式後、新たにチャレンジを開始する第3期生奨学生に対し、奨学金を給与する贈呈式を実施しました。

## 3. スポーツの普及・振興に功績のあった個人・団体に対する表彰

3月27日スポーツチャレンジ助成、修了式、贈呈式の終了後、ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞の第1回目となる表彰式を実施しました。スポーツの普及・振興に功績のあった個人・団体を表彰する制度として、マスコミや各種競技団体を通じて応募いただいた23名の推薦の中から、奨励賞には車いすテニスコーチとして活躍している丸山弘道さんを、功労賞には旭川南高校で柔道の指導に当たられていた中野政美さんを選出し表彰いたしました。

## 4. スポーツを通じて児童・青少年の健全な育成を図るためのヨットスクールの運営及び水辺の風景画コンテスト等の開催

- (1) YMFS(ヤマハ発動機スポーツ振興財団)ジュニアヨットスクール葉山の平成21年度生の募集を1月16日より、WEBを通して開始し、現在13名の受講が決定しています。受講生は3月末に開催されたセーリング・チャレンジカップ in 浜名湖に参加し、各自、大会結果から今年度の目標設定を行いました。
- (2) 全国にあるYMFS提携ヨットスクール(14ヶ所)を支援し、各地域でのマリンスポーツの裾野拡大と青少年の健全な育成を図るとともに、安全啓発指導を行うため、艇の貸し出しや安全施設充実化に向けた支援を継続しています。
- (3) 水辺の風景画コンテストでは、平成21年7月開催予定の第21回コンテストの事前告

知として、東京都お台場の船の科学館にて3月20日から4月5日までの春休み期間中、第20回入賞作品を展示しました。

## 5. スポーツの普及・振興のための指導者への教育指導活動及び指導者の派遣並びにスポーツ用品、教育機器等の提供

- (1) スポーツ指導者のレベル向上に向け、日本体育協会指導員資格取得(1年間通期の受講)とYMFS提案の指導講習(3月)の受講料の一部を支援しました(現在4スクール6名が受講中)。
- (2) 各種スポーツへの派遣指導者を登録するために、セーリングスポーツにおいて指導者登録派遣システムの企画を検討しています。
- (3) 平成21年度のスポーツ教材提供(小中学校、ジュニアスポーツクラブに対し、サッカーボール等のスポーツ用品総額200万円程度)に向けた事前準備を開始しました。提供先は、インターネットにより公募し、抽選により決定します。昨年同様、4月～6月に募集を行い、7月に対象者を決定します。

## 6. スポーツの普及・振興に関する調査研究、及びスポーツの普及・振興のための書籍・視聴覚教材の制作・出版、並びにセーリング競技会等の開催及び開催支援等

- (1) 4月に実施するYMFSジュニアヨットスクール葉山スクール生、YMFS提携ヨットスクール生、及びその保護者に対するアンケート調査の準備を開始しました。
- (2) YMFSジュニアヨットスクール葉山のスクール生を対象として実施した、平成20年度体力測定結果を、平成21年3月15日に実施したスクール修了式にて保護者へ説明しました。今後、この体力測定の結果をもとに各個人の能力向上プログラムの作成を行い、その後の定期的な体力測定により、各個人の体力やスキルアップを確認するため、上記同様、準備を開始しました。
- (3) 上記測定結果等をもとに、指導者向けのカリキュラムを作成するための準備を開始しました。
- (4) 3月27日から29日にかけて、セーリング・チャレンジカップ in 浜名湖を開催しました。参加クラブは、北は北海道から南は沖縄と全国から22クラブ102名が参加。昨年の大会を大きく上回るセイラーが浜名湖に集い、日頃培ったセーリングの技術を競い合いました。レース後は互いの交流と勉強会をかねて、ニュージーランドコーチのクリフトン・ウェブ氏、鹿屋体育大学助教でジュニア/ユースコーチである栄楽洋光氏(スポーツチャレンジ助成1期生)、北京五輪レーザ級代表の飯島洋一選手を特別コーチとして招聘し、セーリングに関するレクチャーを行いました。
- (5) 提携ヨットスクール等において開催するセーリング競技会を支援するため、情報収集を開始しました。
- (6) デインギーセーリング DVD、デインギーセーリングテキストを販売しています。  
平成21年度1月～3月販売数
  - ・デインギーセーリング DVD 52本
  - ・デインギーセーリングテキスト 33冊

## 7. パネル展示、ホームページ開設、定期刊行物発行によるスポーツの普及・振興事業

- (1) 3月に横浜で開催された国際ボートショーで財団活動を紹介しました。
- (2) 新しく制定したヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞のコンテンツ追加など、現在、ページ更新の頻度向上と新たなコンテンツを検討しています。
- (3) 2月に平成20年度(2008年度)の事業活動をまとめた年間報告書を作成し、関係各所に配布しました。